

クリ毬果に対するネスジキノカワガ被害の品種間差

6月中旬から7月中旬にクリで発生する害虫による落毬被害の主な原因は、ネスジキノカワガである。その被害には品種間差があり、被害毬率は中晩生品種に比べ早生品種で高い。

農業研究センター球磨農業研究所研究所 (担当者: 重本 万穂)

研究のねらい

球磨地域でクリ毬果を加害するチョウ目害虫は、主にネスジキノカワガとモモノゴマダラノメイガである。このうち、モモノゴマダラノメイガの発生時期や防除対策については明らかにされている(農業研究成果情報No.664 平成 26 年 5 月)。しかし、ネスジキノカワガについては調査されていないため、本種の被害実態について明らかにする。

研究の成果

1. 害虫に加害され落下した毬果(虫害落毬)は、各品種とも6月から収穫期まで発生し、その中心は6～7月である(図1)。また、7月上中旬に採集した虫害落毬からは2種のチョウ目害虫が羽化し、その9割がネスジキノカワガであった。
2. 6～7月に発生する虫害落毬は、「筑波」や「美玖里」などの中晩生品種に比べ、早生品種である「丹沢」「ぼろたん」「杉光」で発生率が高い(図2、表1)。
3. 年次間差はあるが、早生品種においては6～7月に発生する虫害落毬が落毬の主要因である(表1)。

普及上の留意点

1. 球磨農業研究所(球磨郡あさぎり町)で得られた成果である。

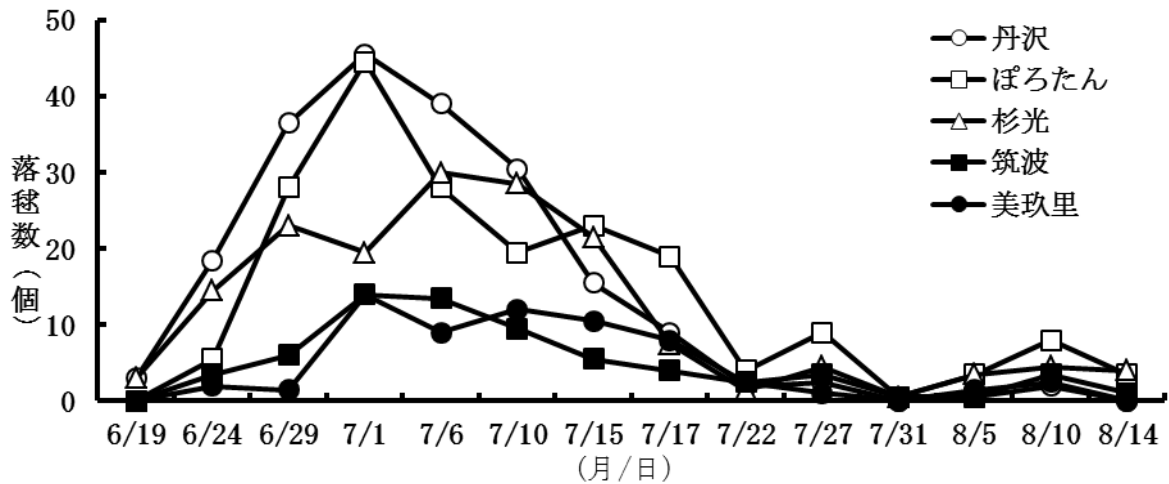


図1 品種における虫害落毬数の推移 (2015)

虫害落毬：落下し虫糞および食害が認められた毬果。7月6日～7月17日にランダムに採集した毬果からネスジキノカワガ 25 頭、モモノゴマダラノメイガ 3 頭が羽化した。

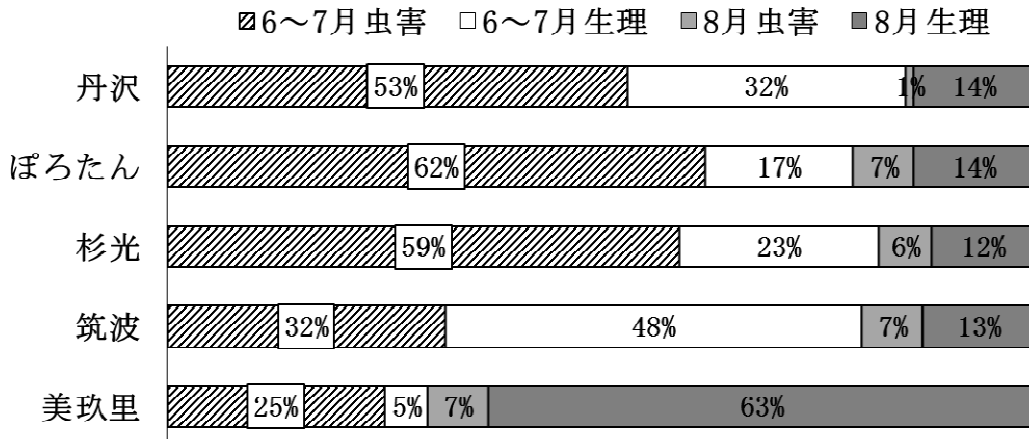


図2 品種における落毬要因

注1) 調査年 : 2013年～2015年

注2) 調査期間 : 2013年:6月26日～8月15日, 2014年:6月18日～8月22日
2015年:6月19日～8月24日

注3) 調査樹齢 : 2015年「ぼろたん」「美玖里」8年生、その他15年生

注4) 調査本数 : 各品種2樹

表1 着毬数および落毬数に対する7月までに落下した虫害毬の割合 (%)

収穫時期	品種	2013		2014		2015	
		a	b	a	b	a	b
早生	丹沢	27.2	60.7	7.5	26.6	33.7	72.9
	ぼろたん	26.0	68.3	7.0	42.7	40.6	75.6
	杉光	15.4	75.0	2.2	23.7	24.8	78.8
中生	筑波	3.3	25.0	0.7	8.1	10.8	61.6
晩生	美玖里	8.0	28.7	2.5	10.9	10.8	35.6

注1) (a) 7月までに虫害で落下した毬果数/着毬数×100、(b) 7月までに虫害で落下した毬果数/総落毬数×100

注2) 着毬数=落毬数+収穫毬数

注3) 2015年の総落毬数は台風による落毬を除く